

## 新潟視察

今夏、会員の見識を広めるため新潟県へ視察研修を実施しました。

一番の目的は「生ゴミから電気を生む仕組み『バイオマス発電』を学ぶことです。

村上市にある株式会社開成は「本当に安心して食べられる元気が出る食品づくり」のため、自社でお米作りを行っていましたが、「コストが多くかかり利益が上がらない農業を、もつとよくしていくこと」との思いから、バイオガス発電を利用した循環型農業システムを計画されました。

瀬波バイオマスエネルギー・プランでは、近くの温泉街や小学校、スーパーからの食品残渣や、農業・畜産廃棄物、汚泥など、今まで捨てられたり、

費用をかけて処分されていたものを回収し、これらの有機廃棄物をメタン

発酵処理して発電を行っています。

設備の仕組みを「人体」に例えて、食べ物を咀嚼する「破碎機」、内臓で消化する「発酵槽」、排便・排尿「堆肥・液肥」ガスは「発電」へと、とてもわかりやすい説明してくださいました。

また発電時の温熱を利用して、雪国・新潟で高品質のパッショングルーツを栽培し、

都心のデパートで販売。電気は売電され、肥料で作られたお米は温泉街や市場へ出回

るという、循環型社会システムが構築され

ていて、感心しきりでした。

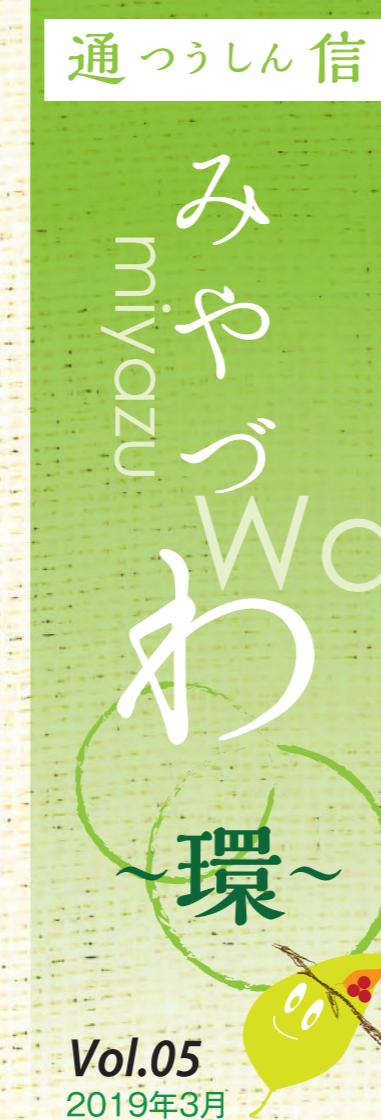
農業の未来、また子どもたちの健康や環境を思い、ゴミを資源に変え豊かさの循環を生み出している企業の先進的な取り組み

に、勇気づけられた研修でした。

## 会員研修

平成29年4月より「みやづ環ネットワーク」と改名し、「低炭素型で心の豊かさを実感できる「住んでよし」のまち・宮津」の実現を目指して活動しています。

「みやづ環ネットワーク」は宮津市が取組む「みやづ環の地域づくり行動計画」を実現、支援することを目的に、平成25年8月に「みやづ環の地域づくり推進ネットワーク」として市内の35の団体及び個人を会員として設立されました。活動内容は宮津市の行動計画に基づいた循環型エネルギーの普及や環境教育、プロジェクトなど暮らし方の提言活動などに取組んできました。その後、宮津市の行動計画に限らず、この地域を対応できる自立した組織として、平成29年4月より「みやづ環ネットワーク」と改名し、「低炭素型で心の豊かさを実感できる「住んでよし」のまち・宮津」の実現を目指して活動しています。



【編集・発行】  
みやづ環ネットワーク  
事務局  
宮津市市民部市民課環境衛生係  
〒626-8501  
京都府宮津市字柳縄手345-1  
TEL.0772-45-1617

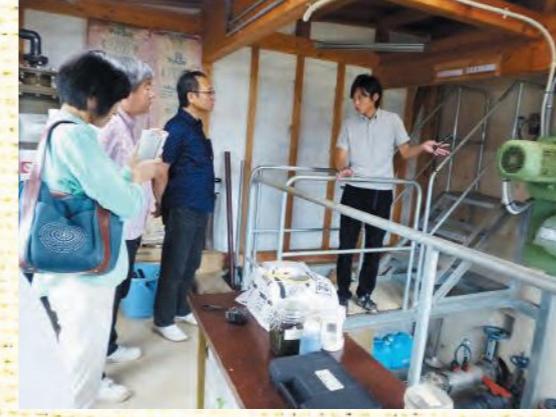
○会員を募集しています  
環境に関心のある方、これからまちづくりについて何かしてみたい方、私たちと一緒に「低炭素型で心の豊かさを実感できる「住んでよし」のまち・宮津」の実現に向けて活動しませんか。みやづ環ネットワークでは、個人、事業者、団体を問わず、随時会員を募集しています。興味を持たれた方は、事務局までご連絡ください。

## 学習会

○パリ協定・SDGs学習会  
6月19日 参加者10名  
講師：京都府地球温暖化防止活動推進センター  
木原氏

○びわ湖環境ビジネスメッセ  
10月17日 参加者9名  
滋賀県立長浜バイオドーム  
講師：京都大学研究員  
稻垣氏

○再生可能エネルギー  
地産地消セミナー  
2月12日 参加者12名  
講師：京都大学研究員  
稻垣氏



平成30年は7月豪雨災害に続き、台風による災害と大きな被害を受けた年でもありました。また、昨年の経験から懸念されていた大雪による灾害ではなく、気候変動を受け入れながら暮らし方を考えなくてはならない年であったと思います。地球の温暖化、気候変動は何億年という地球の歴史の中での自然現象であり、歴史の浅い人類がコメントできることがあります。しかし、CO<sub>2</sub>排出など近年の人間の活動がこの現象を早めていることも否定できません。

みやづ環ネットワークでは、こうした急速な環境変化の中、この地域に暮らす人々に知ってほしいこと、子供たちの未来のために今できる小さなことを企画しています。平成30年度は、世界の動きを知つてもらう為の「持続可能な開発目標(SDGs)」の講演会や、新電力の学習会、地域内で取り組まれている地域循環型事業の市民の見る視察、そして子供たちに自然を感じてもらおう。私たちができることはほんの小さなことかもしませんが、小さなことの積み重ねがやがて大きな結果となることを目標に、2019年度も活動していきたいと思います。

# ○こども未来ファンド事業

7月25日、丹後海と星の見える丘公園で、「あつまれーうみほし  
警備隊」を開催しました。

このイベントは「丹後の自然を守りたい人を育てること」を目的として丹後海と星の見える丘公園と共に催し、宮津市のはか丹後地域の小学校4～6年生の児童が参加しました。

子ども達は隊員になるためのミッションとして自分達で食料となる魚を釣つて捌き、木や枝を拾つて火を起こし魚を焼くことに挑戦しました。また、太陽光を集めて調理をするソーラークッカーを使つてご飯を炊くなど、自然エネルギーを使って昼食を作りました。昼食後は、再生可能エネルギーについて学習し、家でも利用でき

るミニーソーラークッカーを作りました。

ほし警備隊の隊員に認定されました。  
子ども達はどのミッショングも真剣に取  
り組んでおり、今後も子ども達と一緒にこ



## ○市民対象事業

上宮津ホンモロ・・竹ハイオマツ旅館観察見学会

9月26日、会員と一般公募の参加者14名で、最初に旧上宮津小学校のブームで27年度から上宮津地域会議で実証しておられるホンモロコの養殖の取組

プールや水槽には10センチ近くまでに成長した約5万匹のホンモノコが元気よく泳いでいました。また、29年度からは休耕田を利用された養殖も行われていました。

説明をいただいた同会議の皆さんに、地域活性化に向けて頑張つておられる姿には頭が下がる想いでした。出荷までの世話や利益が出るまでにはまだ時間が必要など、苦労話も伺いましたが、ぜひ、地域の新たな特産品となり、

水田等を活用した取組が広まつてほしいと強く感じました。次に、里波見地区にある竹バイオマス施設を伺いました。こちらの施設では、放置竹林対策として伐採された竹を製品化するサンコール(株)（京都市）

の工場があり、担当職員の方から、連続炭化装置でできた微粉炭の説明を受けました。竹を燃焼させるのではなく、CO<sub>2</sub>の排出を抑制した高温水蒸気で短時間で生産される技法を開発

発されたことの説明や京都ブランドで製品化を進めている話を伺い、参加者は、「宮津でこのような場所があることは知らなかつた。課題もあるが、ぜひ、軌道に乗せてほしい。」と話されていました。



## SDGs講演会

ノーフィールドエンジ

オムロンは宮津市  
演会を行いました。

の活性化に関する包  
までに由良地区をは  
こう、努力をいたしま

はもご尽力をいたたきました  
講演会のテーマは「今、企業がエネルギー対策に力を入れ  
る理由とは」企業評価のキーワード“SDGs”と“ESG”  
について、近年注目されていながらもまだ未だ発展途上な  
ところについて、近況と見えていくところから、持続可能な  
社会実現への道筋を示すことを目的としています。

“”と題して、近年注目されているESG（持続可能な開発目標）とESG（環境・社会・ガバナンス）というキーワードについて、宮津市の事業者や住民に知つてもらい、意識を持つてもらうことを目的に開催しました。

講演会では、SDGs、ESGとは何かを説明いただき、省エネは将来を見据えた先行投資であること、世界では、企業が〇〇削減を取組として自社で消費する電力等を

美がこの資源に向けた貢献として、100%再生可能由来のものにしていく取組が広がり、企業間取引にも影響が出ていることなどを現場目線

貴様がおっしゃる通り、SDGsは、社会問題を解決するための取り組みであり、その実現に向けた取り組みが、企業の持続可能な成長につながります。また、事業の中でSDGsを積極的に取り入れているオムロンの具体的な事例を伺い、現在の経済や社会を取り巻く状況を学ぶことができました。



## ○ ピンとポイント事業

私たちは65歳以上の高齢者を対象に、「ピンと生き生き宮津ライフ」を目指し、①自助・共助でピンと元気に長生きする暮らしが、②エネルギー・資源を大切にした持続可能な暮らし方、③地元を元気に明るくする暮らし方を推進しています。そして、それらの暮らし方につながる項目を示し、高齢者の方に楽しみながら取り組んでもらうことを利用とした「ピンとポイント抽選

日本の高齢化社会や温暖化が進む中で、まずは自分達が、「元気にはつらつとした姿を見せてること、環境に優しい生活を送ること」が、次世代を担う子どもたちの明るく住みよい持続可能な社会に繋がっていくことを願っています。

